

立ち往生の中国

もうひとつの革命が始まった



天安門広場を埋めた学生デモに対し、李鵬首相は「動乱」として戒厳令を布告した

学生デモに対する戒厳令という異常事態の中、中国指導部の権力闘争は二転三転の後、鄧小平・李鵬ラインの強硬派が、趙紫陽氏ら穏健派を封じ込んだと伝えられる。しかしなお、予断は許されない状況だ。いったいなぜ、学生たちは立ち上がったのか。その理由と歴史的な意味を、現代中国学の権威、中嶋嶺雄教授が解説する。

(編集部)
(グラビア参照)

背景に一党独裁に対する深刻な政治不信

四月十五日の胡耀邦氏の死を契機とする、中国の民主化要求の学生デモは、その後一挙に広がり、ゴルバチョフ訪中(五月十五―十八日)による世紀の首

脳会谈前後に、天安門広場が百万の人民の波で揺れるという大変な事態になった。

こうした「大衆反乱」とも思われる状況がなぜ出現したのか。その根本的な背景には、今日の中国の共産党一党独裁に対する深刻な政治不信、および社会主義そのものに対する根源的な不信の心情が、中国全土にみなぎっていたからだと言っていだろう。

中国は、毛沢東体制を脱却してから十年の間、改革と解放の政策を続けてきたが、経済の混乱は極限に達し、スーパードルフィンといわれるような物価の上昇の中で、全土はヤミ市経済のような状況を呈してきた。

それは当然のこととして、改革と開放をうまく利用した新興層や共産党幹部ら一部の受益者層と、一般大衆との格差をますます増大させていった。



中嶋嶺雄

(東京外語大教授)

そうした中で、去る三月から四月にかけて開かれた全国人民代表大会は、李鵬首相の指導下で、経済の引き締めを断行する決定を下したのである。

経済改革によってさえ社会の不平等がますます増大している上に、今後の引き締め政策によって念願の民主化や政治改革は絶望的な状況になるというイラ立ちが、大衆の間に急速に高まっていた。そんな中、「民主化の旗手」胡耀邦氏の死に対する党中央の態度は極めて冷淡なものだった。

このような大衆の心理状況が、一方の「民主化の旗手」であるゴルバチョフ書記長の訪中



李鵬首相



趙紫陽氏

によって刺激され、かき立てられ、一挙に燃え上がったのが今回の事態なのである。

皮肉にもゴルバチョフ氏は、その民主化要求の波の故に、北京の象徴である天安門広場に、足を一步も踏み入れることなく帰国せざるを得ない状況に追い込まれたのだった。

しかし、学生たちは極めて整然と、まさに非暴力的な手段で「平和的諸願」を繰り返して、静かな運動を展開していった。

そのことが、学生たちの支持

基盤を拡大したことはいうまでもないが、それはまた学生たちが、ここで挫折したらもう中国に未来はないという危機感から、あらゆる権力側の「挑発」に対して極めて理性的な行動をとったのだともいえる。

にもかかわらず、なぜ李鵬首相は、戒厳令発動という国家の威信を丸つぶれにしてしまうような強硬手段に出たのか。ここには、次のような深刻な理由があったと私は見る。

戒厳令は李鵬首相の「予防クーデター」

つまり、ゴルバチョフ訪中の警備に当たった人民解放軍第三八軍が、学生鎮圧に関して当局に反発したこと。そこへもつてきて、鄧ワンマン体制のカナメである党中央軍事委員会や、李鵬首相のお膝元である國務院内部にも民主化要求に呼応する動きが高まったことなどである。

こうした危機感から李鵬首相は、一種の「予防クーデター」として戒厳令に踏み切った、と見るべきではないだろうか。

しかも、戒厳令そのものが二つの重大な問題を抱えていた。

その一つは、李鵬首相が「政府と党を代表」して戒厳令を施行したことである。国民を代表する首相は政府を代表するとは

いえども、決して党を代表するものではない。その党を代表する趙紫陽氏が失脚したのなら、正規の党中央委員会が開かれていなければならないのに、そのようなプロセスがとられた形跡は全くないのである。

まして戒厳令という国家的措置ならば、中国の国会に相当する全国人民代表大会の承認も必要なのに、その常務委員会さえ開かれていない。すなわち、戒厳令そのものが違法なものだったのである。

二つ目の問題点は、李鵬首相が今回の学生運動を「一握りの破壊分子による策動」と決めつけた点である。

たしかに学生のデモを見ると、規模といい、整然とした行動といい、誰かが背後から指示していると思われるが、しかし、そのような党の路線闘争と結びついたものだったとしたら、ここまでデモが拡大していたらどうか。

全くそれとは反対に、今回の学生デモは、広範な市民層の支持を得た「人民の反乱」であり、一種の「市民革命」的色彩をおびているといっても過言ではないと私は思う。

それなら趙紫陽氏の立場は何かという説もあろう。たしかに趙氏は、党内の権力闘争で孤立化する中で、学生の要求に共感する姿勢を見せていた。

しかし学生たちは、趙氏を救うために立ち上がったのではない。そもそも趙氏は、経済改革の混乱を引き起こした責任者であり、かつては胡耀邦氏追い落としに加担した当事者でもある。

学生たちが趙氏を決して「希望の星」と見ていたのではないところにも、今回の事態の深刻さがあるといえよう。

五四運動いらいの画期的な知識革命

学生たちにとっては、言論の自由や法に基づく政治という民主化がかなえられるか否かが問題なのであって、今回のデモを指導部の路線闘争に直結するものとだけ見るのは、あまりにも運動の性格を矮小化したものだ。

ともあれ、鄧小平・李鵬という最高権力者は、戒厳令を敷いたことで自ら墓穴を掘ったとい

わざるをえない。

いま天安門広場を埋めている学生たちは、かつての文革時代の紅衛兵運動とは決定的に異なる。それは「悪憲」をスローガンに掲げていることから分かるように、近代的な政治意識に目覚めている点だ。そして極めて豊かな情報を享受している点である。

その意味でも、今回の学生運動は、五四運動以来の知識革命の様相を伴う画期的な出来事であり、長い間の毛沢東家長体制、その後の鄧小平ワンマン体制に対する根本的な挑戦だといふべきだろう。

まさに中国は体制的な危機、さらには、建国四十年にして国家解体の危機にさらされているといっても過言ではない。

もどより事態は極めて流動的で、全く予断を許さない。最新報道は、李鵬氏らが軍をバックに党内主導権を固め、学生たちが追いつめられていると伝えている。また仮に趙氏が復権したとしても、その前途はイバラの道だろう。

ただ、はっきり言えることは、やがて中国社会を動かしていく「もう一つの革命」が、いまここに開幕したということである。

特集 平成元年の新社長 ▶一流企業50社(昭和生まれ、技術畑、ジュニア…)



「私が社長に選ばれた理由」(日本郵船社長ほか)…34

▶学費1,000万、ジュニアを鍛える「財界二世学院」ルポ

あ、横井英樹氏が手がける「ホテル・ニュージャパン」の再開発…163

入院70日、面会謝絶～美空ひばりの見えて来ない「重病」…168

立ち往生の中国 もうひとつの革命が始まった(中嶋嶺雄)…166

お父さんの財布直撃!? 学生向けクレジットカードが大流行…40

現代の奇病!? 企業戦士を襲う「帰宅恐怖症」(自己診断表付き)…35

自民総裁選で新閥將軍めざす竹下登の懲りない戦略(ほか)…171

PHOTO

今週の顔 中曽根康弘、栗良平、浅野温子、長渕剛(ほか)／天安門広場、動乱論争を超えていま歴史は／江戸から330年 神田川ここにあり(ほか)

倉本昌弘のゴルフ(ほか)／さーくる同窓生／'89おんな 私の遊タイム／シネ・ブリッツ／春日局／美術館散策…ほか

連載

Human Flash

第三皇女鷹司和子さんの死／「たけしカレー」に賠償請求した社長／患者殺し大金手にした浜松医大助手／落郷・全斗煥氏を待つ証人喚問(ほか)…25

ギョーカイvsシリーズ テイジンvs東レ ……44

男のワンダーランド…154 女のワンダーランド…150

男の目・女の目 ねじめ 正一／神津 カンナ ……152

囲碁・将棋「この一手」プロの目・アマの目 ●詰め碁 ●詰め将棋 ……106

うんちくコミック マジです！ タケちゃん 古谷三敏／ファミリー企画 ……128

漢方治療の最前線「月経異常」／有名人の死因(ほか)…78

新皇室日誌 ⑤〈養護学校の子供たちを励ます〉…147

BOOK FAIR ……114

タレントストリート…90

サラリーマン交差点…158

男と女のセクストラ…62

(高校・中学1・2・3年生) 浪人生 夏期講習＝(単科・受験科)受付中

私大受験なら 昔も今も 日本の王者

早稲田予備校

【東京本校】〒169 新宿区高田馬場4-3-5 電話(03)368-7151
【ナゴヤ校】〒453 名古屋市中村区椿町1-22 電話(052)452-7511
【仙台校】〒980 仙台市青葉区五番3-5-75 電話(022)221-7461

健康ガイド…118 肉・万華鏡…77 天眼鏡…55

日本語ナンセンス・アツプ 椿村光平の一発!! 勝負株(ほか) 134 160

Regular	
昭南島物語	戸川幸夫
三角のあたま	阿刀田高
動物たちの最近事情	中川志郎
昭和東京ものがたり	山本七平
タイム・ライブラリー(終)	芳村真理
松本恭子と二つのレモン	…
湯の花親子	山上たつひこ
マンすつから母さん	植田まさし
105	66
140	58
48	60
56	108